

## 四日市港管理組合議会 第1回定例会報告

平成20年度当初予算案は、一般会計61億968万円で、港湾整備事業特別会計29億2,733万円の合計90億3,701万円が管理者から提案され可決されました。



四日市港には市が管理する公園も含めて、浜園緑地、富双緑地、ポートビル、霞港公園、シドニー港公園などたくさんの公園があります。しかし残念ながら市民がほとんど行ったことがないのが現状です。広く知っていただけるよう看板設置、広報等の工夫があるので提案させていただきましたが、20年度、1,444万8千円の予算が新たに計上され取組みが始まることになりました。

## 政策防災常任委員会報告

私が委員長を務めます政策防災常任委員会では、ブラックボックス化されていると言われている県のIT・情報関連政策、予算(年間約50億円)に関して専門家を参考人に招き集中審議を行いました。2月19日の本会議にて委員長報告を行い、様々な提案を行いました所、執行部から下記の通りの方針が示されました。大きな前進であると感じますが今後の取組みを注視していきたいと考えます。

1. 運用・保守費用(年間約30億円程度)の削減については、監視体制の共同化などによりトータルコスト削減を行う。システムの運用実績を翌年度の予算要求資料として活用する仕組みをつくる。
2. 調達前審査の充実については、十分審査ができるよう審査期間の見直しを行い、チェック項目を見直し仕様書や設計金額の審査を充実させる。
3. CIO補佐官の設置については、どのような形が良いか20年度中に検討して結論を出す。
4. 調達した成果品の確認については、19年度の成果品を調査、分析し、20年度から試行的に行い、21年度から全システム管理担当者が利用できる制度をつくる。
5. 情報担当職員のスキルアップについては、20年度から担当者の研修を実施する。
6. 情報システムの共同化・パッケージ化の取組みは、近県の情報担当課長会議で、共同化の提案を呼びかける。先進事例を調査する。
7. 議会に対して、20年度予算から大規模システムの新規・再構築に係る予算については詳細に説明する。



▲2008年2月8日 伊勢新聞



新政みえ 県外調査

### 【個人献金のお願い】

いながき昭義の政治活動は皆様方の個人献金にお支えいただいております。勝手なお願いで恐縮ですが、可能な範囲でのご支援賜りますようお願い申し上げます。尚収支報告はホームページにて公開させていただきますのでご覧ください。

- ◆三重銀行 三重支店 口座番号911077 名義 昭友会 代表者 稲垣昭義
- ◆ゆうちょ銀行 記号12280 番号26086671 名義 昭友会 代表者 稲垣昭義

三重県議会議員

# いながき昭義

後援会  
会報

Contents もくじ

- メールマガジン
- ブログ「稲垣昭義のひとり言」 **チェック!!**
- 県政座談会のご案内
- 平成20年 第1回定例会 2・3月会議報告
- 四日市港管理組合議会 第1回定例会報告 **チェック!!**
- 政策防災常任委員会報告 **チェック!!**



### ●メルマガ「Dream21メール版」登録者 間もなく1,000件突破!!

平成13年3月から定期的にメールマガジンを配信致しております。ぜひご登録いただきご愛読いただきますようお願い申し上げます。件名に「メルマガ登録」と記載の上、inagaki@dream-21.jpまで送信下さい。

[inagaki@dream-21.jp](mailto:inagaki@dream-21.jp)

### ●ブログ「いながき昭義のひとり言」日々更新中!!

昨年5月からブログを開設し、日々の活動や議会報告をほぼ毎日更新しております。ぜひご覧下さい。尚ブログランキングに参加しておりますので(現在130位前後)ワンクリックのご協力をお願いします。

<http://ameblo.jp/dream-21>

### 県政座談会のご案内

定期的に各地区市民センターごとに座談会を開催し、皆様と意見交換させていただきます。是非ともお誘い合わせでお越し下さい。

- 5月31日(土) 18:00～ 富洲原地区市民センター
- 5月31日(土) 19:30～ 大矢知地区市民センター
- 6月 7日(土) 18:00～ 水沢地区市民センター
- 6月 7日(土) 19:30～ 山田町高齢者若者センター

# Dream21

## Vol.23

本年より、県議会は年二回制に改革したため、第1回定例会は6月30日までの会期ですが、3月19日に平成20年度当初予算案など58議案の採決が行われ可決されましたのでご報告いたします。

## 3月5日、いながき昭義7度目の一般質問登壇!!

### ① 中小企業の人材確保のため、首都圏の学生を対象に県が体験道場開催

#### 稲垣昭義議員

まず、中小企業の魅力発信と人材確保について質問します。北勢地域は企業立地も活発で、例えば四日市の有効求人倍率は約1.9倍と高い水準で推移しておりますが、一方で北勢地域の経済を支えている中小企業は人材確保が大きな課題です。

県内の中小企業には素晴らしい技術を持った企業、素晴らしい経営者がたくさんいます。県が学生たちをワゴンに乗せて、直接経営者や技術力に触れていただく機会を提供し、また県内の文化や歴史などにも触れていただきながら県内を旅していただくことが、中小企業の人材確保のミスマッチを解消する非常に有効な手段であると考えます。また、参加した学生たちが、体験を通じて得た三重県の魅力、県内中小企業の魅力を県外へ発信いただけることにもつながると考えますが、20年度の具体的な取組をお示しください。また、単年度の取組ではなく、継続して取り組む必要があると感じますがご所見をお願いします。さらに、優秀な人材を確保しようと思えば、広く県外に目を向け、特に首都圏・大阪・名古屋といった大都市圏の学生に対してのアプローチが重要であると考えますが具体的な考えがあればお示しください。

#### 中尾兼隆 農水商工部長

平成20年度からは首都圏や県内の学生による企業での体験学習として、中小企業の経営者自らがその魅力や実像を伝える体験道場を開催したり、首都圏等で学生による体験報告会の開催や、インターネット・フリーペーパー等を通じた情報発信、各企業での体験状況の映像化、PR冊子の作成を行います。今後こういった仕組みを継続的に進めることにより、中小企業の経営の核となる人材確保につなげていきたいと考えます。

### ② 北勢地域の広域的な観光振興計画策定を提案 (今まで北勢地域の観光戦略はありません)

#### 稲垣昭義議員

次に、観光戦略ですが、私は、北勢地域において、名古屋から近いといった立地条件の優位性や核となる観光誘客施設がいくつか存在し、それらを点ではなく面として情報発信する必要性、また歴史的・文化的な潜在能力の高さ、そういったことから北勢地域としての観光振興計画を策定し、観光誘客に力を入れるべきだと考えますが、ご所見をお聞かせください。

#### 大森久 農水商工部観光局長

北勢地域は東海道をはじめ非常にたくさんの街道があるとか、伝統工芸などといった歴史文化の資源がたくさんあります。また、石油化学コンビナートや自動車・半導体・液晶の関連企業といった多様な、産業観光の素材もたくさんあります。

北勢地域には全10市町が会員の北伊勢広域観光推進協議会という広域観光に取り組むための組織が既にありまして、まずこの組織が、例えば、自動車観光などにより各市町の持つ多様な資源を有機的に結びつけた発信をしていただき、立ち寄り率1.3をもっと増やし、経済的効果につなげていくといった必要があると思っています。県として、地域の様々な方々と連携し、北勢地域の観光振興にしっかりと取り組んでいきます。

### ③ 県の埋蔵金(?) 基金の見直しを執行部と激論、様々な提案

#### 稲垣昭義議員

基金と補助金のあり方について議論させていただきます。27ある特定目的基金のうち、今後重要な議論の一つは、県民に超過課税を負担いただき、その分を積み立てている福祉基金・環境保全基金・中小企業振興基金・スポーツ振興基金の4つの基金であると思います。この4つの基金は合計約80億円程度ですが、今後どのように見直しを検討されていくのかお示しください。

もう一つは土地開発基金です。この基金は公用・公共用に使用する土地をあらかじめ取得し、事業の円滑な執行を図るために昭和44年に設置をされた非常に古い基金です。平成18年度末で約131億円の残高のうち、半分は土地です。現在基金が保有している土地を県が政策的に有効活用する際には基金を取り崩し、最終的には基金を廃止していく考えが必要かと考えますが、今回の基金見直しの議論の中でそのような視点での議論はあったのか、今後この土地開発基金のあり方をどうしていくのかをお示しください。

補助金に関しても、その中身の大半が人件費であるものも多々見受けられます。これらの補助金については、改めてその人件費が妥当であるのか、どのような成果が上がっているのか、より効果的な手法が他にはないのかといった検証が毎年しっかり行われる必要があると考えます。ご所見をお聞かせください。

#### 福井信行 総務部長

特定目的基金の見直しについては、経営改善プランにおいて用途が類似している基金の統合とか、社会情勢の変化等により、必要性が薄れてきた基金の廃止を検討することとしております。議員もご指摘がありました現時点では8つの基金を廃止、統合することとし、今回廃止・統合しなかった基金については引き続き必要に応じて見直しの検討を行います。

法人県民税の超過課税の今後のあり方については、これまでの経緯や新しい行政需要を踏まえつつ、税を納めていただく方々のコンセンサスを得ることが何よりも重要ですので、次回の見直しの時期に合わせ議論をさせていただきます。

土地開発基金については、バブル崩壊以降、土地が値下がり傾向にあり、あらかじめ土地を取得するというメリットは薄れてきていますが、事業を円滑に執行していくためには土地の先行取得が必要な場合も想定されますので、今回の見直しでは当面存続させていただいたところです。しかし、土地開発基金の現在の基金総額は131億円ですが、基金の適正規模については、今後の基金の資金需要等も踏まえ検討課題とします。

補助金については、今後より一層厳しい財政状況が見込まれる中、事務事業の抜本的な見直しや、選択集中を進める中で個々の補助金についても必要性・内容を精査し、必要な見直しを行います。



#### 稲垣昭義議員

県の借金は1兆円を超えました。そのことを考えると今回特に土地開発基金など思い切った見直しをして提案されるべきだったのではないかと考えますが、いかがですか。

#### 福井信行 総務部長

制度上の問題は出てきますが、130億円をそのまま寝かしておく必要があるのかどうかについては当然検討の余地はあると思いますし、今後の土地取得の状況や他府県の状況等を勘案しながら見直しも含めて十分検討します。



県政座談会の様子

### ④ 初当選以来粘り強く議論してきた大矢知・平津不法投棄事案について議論

#### 稲垣昭義議員

廃棄物行政について議論をさせていただきます。全国最大規模の不名誉な大矢知・平津事案の不法投棄に関して、住民との話し合いの中で、住民の求める場所を新たに3カ所再調査していただき、その結果待ちと聞いております。県が原因者に対して出した措置命令の履行期限は本年12月末ですが、今後の県の姿勢、進め方をお尋ねいたします。

また、今後、不法投棄エリアのあり方を住民を含めてともに検討する協議会は、昨年3月13日に準備会を立ち上げてからその後動きはありません。今後の県の考え方をお示しください。

#### 松林万行 環境森林部理事

大矢知・平津事案については、地元住民の皆様からは、処分されている廃棄物を直接自分の目で見たいということで、掘削調査の強い御要望をいただいております。これを最優先して原因者に実施させています。現在は既にボーリング調査が終了し、3月中旬ごろには地元の皆様にボーリングコア見学会を開催する予定です。今後は、地元などにより選任された学識経験者により分析結果の評価をいただくこととなっております。

また、将来的な処分場跡地の保全及び活用のあり方については、この廃棄物処分場が法の定めにより廃止までの管理が必要な処分場であること、多数の地権者が存在することなど、対応すべき様々な課題があることから、昨年、処分場跡地保全活用検討会の準備会を開催しました。今後、掘削調査・措置命令履行の進捗状況を踏まえた上、地元住民の皆様や学識経験者のご意見をお伺いしながら、処分場跡地の保全及び活用のあり方についての検討を進めていきます。

### ⑤ 県政最大の課題の一つである最終処分場の問題について考え方を質す

#### 稲垣昭義議員

新小山最終処分場の整備についてお尋ねします。現在の三田処分場の耐用年数が平成23年であることから、公的関与の管理型最終処分場の整備に関してスピード感を持った取組みが求められます。建設事業費が135億円程度と言われておりますが、事業主体である環境保全事業団の資金繰りも含めて今後の見直しをお示しください。

#### 松林万行 環境森林部理事

新小山最終処分場については、県環境保全事業団が廃棄物処理センター事業の一環として平成10年度から準備を進めてきました。検討を一時中断していましたが、しかし、議員ご指摘のように残余年数が約4年という状況になり、今後企業が集積する北勢地域における産業廃棄物・災害廃棄物の受け皿としての新小山最終処分場を早期に整備する必要があります。このため、事業団では新小山最終処分場の検討を再開し、現在詳細設計の策定を行っています。今後、引き続き法的な手続を行い、三田処分場の埋立終了までに新小山処分場が開設できるよう作業を迅速に進めます。

整備費は、産業廃棄物分については、基本的には事業団が市中銀行からの借り入れにより対応することとなりますが、多額の初期投資が必要であり、国の産業廃棄物処理施設モデル的整備事業を活用し、県も一定の支援を行っていくと考えております。なお、災害廃棄物分については、受け入れ時期が明確でなく、資金計画の設定が困難であることから、県として事業団に対し一定の支援を検討する必要があります。

### ⑥ 我が国は都市鉱山の世界有数の埋蔵国である。全国に先駆けた取組みを提案

#### 稲垣昭義議員

最後に視点を変えて、都市鉱山という言葉に耳にされたことがあるかと思えます。既に鉄・銅・アルミニウム・鉛などではそれらのスクラップは重要な原材料供給源となっておりますが、本年1月11日に独立行政法人物質・材料研究機構の発表で我が国の都市鉱山資源は世界有数の資源国に匹敵する規模になっていることが明らかになりました。例えば金は約6,800トンで、世界の埋蔵量4万2,000トンの約16%を占めており、銀は22%に及び、他にもインジウム61%、すず11%、タンタル10%など世界の埋蔵量の1割を超える金属が多数あることがわかりました。これまで廃棄物行政というと、不法投棄などの後ろ向きなイメージや、最終処分場などは近隣住民から迷惑施設として嫌われるといったように、あまり良いイメージがなかったと感じますが、資源がないと言われてきた我が国が実は次の世代に夢のある都市鉱山を抱えているといった実態に着目し、限りある資源を海外に逃がさない、あるいは都市鉱山を積極的に有効活用していく取組みを全国に先駆けて打ち出してはどうかと考えます。ご所見をお聞かせください。例えば科学技術振興センター工業技術研究所で次世代に向けた具体的な研究を始めていただきたいと思いますと考えますがいかがですか。

#### 高橋陽一 政策部理事

科学技術振興センターでは、国、産業界での技術動向、コストパフォーマンスなどについて情報収集を行いながら、県内産業界への波及効果も勘案しつつ採掘技術、代替技術とともにリサイクル技術の開発の可能性を検討します。



◀ 2008年3月6日 中日新聞